

【作品介绍・学芸員コラム・グッズ・タイアップ・広報画像情報更新！】

大阪歴史博物館
特別展「小泉八雲—怪談とフォークロリストのまなざし—」

会期 | 2026年4月11日（土）～6月8日（月）

会場 | 大阪歴史博物館

大阪歴史博物館では、2026年4月11日（土）から6月8日（月）まで、6階特別展示室において、特別展「小泉八雲—怪談とフォークロリストのまなざし—」を開催します。

『怪談』に代表される幻想的な作品を生み出した作家、小泉八雲。彼は、日本を「小さな妖精の国」や「神々の国」と表現し、異邦人としてその文化を見つめ続けました。そんな八雲の作品には、怪異譚(かいいたん)や民間信仰、自然観に基づくものが少なくありません。それは、八雲がフォークロリスト（民俗学者）としての視点も持ち合わせていたためです。八雲は、日本人の目に見えないものへの祈りや自然を敬う心を感じとり、表現しました。

本展では、八雲が、自身の目と耳をとおして触れた日本の民俗・文化の魅力やその豊かさを、数々の作品から読み解きます。

開催概要

展覧会名：特別展「小泉八雲—怪談とフォークロリストのまなざし—」

会期：2026年4月11日（土）～6月8日（月）

休館日：火曜日 ※ただし、5月5日（火・祝）は開館

会場：大阪歴史博物館 6階 特別展示室 [〒540-0008 大阪市中央区大手前4-1-32]

<https://www.osakamushis.jp/>

（最寄駅）Osaka Metro谷町線・中央線「谷町四丁目」駅②号・⑨号出口、大阪シティバス「馬場町」バス停前

お問合せ：大阪市総合コールセンター（なにわコール）06-4301-7285 ※午前8時から午後9時（年中無休）

開館時間：午前9時30分～午後5時※入館は閉館の30分前まで

観覧料：大人1,600（1,400）円、高大生1,000（800）円

消費税込）前売券販売期間：2026年2月2日（月）～4月10日（金）

※（ ）内は前売りおよび20名以上の団体料金 ※中学生以下、障がい者手帳等をお持ちの方（介護者1名を含む）は無料

※チケットの販売につきましては、大阪歴史博物館ホームページ（<https://www.osakamushis.jp/>）等をご覧ください。

主催：大阪歴史博物館、NHKエンタープライズ近畿、産経新聞社

共催：NHK大阪放送局

後援：小泉八雲記念館、公益財団法人 大阪観光局

展示資料数：約150件（予定）

本展&常設展示のチケットをご提示のお客様 先着1,000名にオリジナルグッズプレゼント！

特別展示室の入場受付にて、会期中、本展と常設展示のチケットをセットでご提示のお客様先着1,000名に大阪歴史博物館オリジナルグッズをプレゼントします。

小泉八雲について



ラファディオ・ハーン（Lafcadio Hearn）は1850年、ギリシャ西部のレフカダ島で生まれました。19歳で単身渡米、シンシナティ、ニューオーリンズで新聞記者として活躍したのち、マルチニーク（西インド諸島）で2年を過ごします。

明治23年（1890）に来日し、横浜で日本の魅力に触れ、長期滞在を決意します。知人の紹介により松江で英語教師の職を得たハーンは、伴侶となるセツと出会います。その後、熊本、神戸と居を移し、明治29年（1896）に帰化（国籍法以前）、日本名を「小泉八雲」としました。そして東京に移り、セツの支えも得ながらさまざまな再話文学を生み出しました。明治37年（1904）4月2日、『怪談』を出版するも、9月26日に自宅にて心臓発作によりこの世を去りました。54歳でした。

※名前表記について、基本的に帰化以前の時期については「ラファディオ・ハーン」、帰化以降は「小泉八雲」といたします。
※再話文学：伝説、民話などを原典のままではなく、現代的に再構築し表現する文学。

神戸時代の小泉八雲 大阪歴史博物館保管

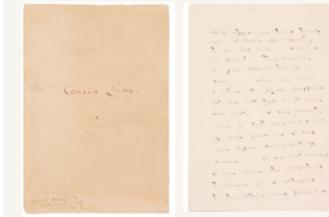


【1】

[NEW] 各章解説・作品紹介

第1章 異界の旅人—飛翔する白鷺—

1850年、ギリシャでラファディオ・ハーンは産声を上げました。両親の離婚のため、2歳でアイルランドの大叔母に預けられ孤独な幼少期を経験します。この頃から、幽霊や精霊を幻視するようになります。13歳のとき、イギリスの全寮制神学校に入学するも、徐々にキリスト教への反発を強めます。19歳になったハーンは単身渡米、新聞記者としてシンシナティ、ニューオーリンズ、マルティニークを飛び回りました。まるで、自らの姓（Hearn）由来である白鷺（heron）のように、理想郷を求めさまよい続けたのです。



「私の守護天使」草稿 明治時代 松江市立中央図書館蔵

当初、「カズン・ジェーン」という題名で執筆された本稿では、幼少期の神秘体験が語られます。ある日、ハーンは悪意にしていたジェーンから信仰に関する説教を受け、あまりの暴言に死別を願うほどの憎悪を覚えます。ある秋、ハーンはいはるはずのないジェーンの幻を見ますが、こちらを振り向くジェーンは顔はなく、恐怖から叫び声をあげました。その後、ジェーンは病死してしまいました。この経験は、『怪談』所収の「貉(むじな)」を生み出すきっかけとなったと考えられています。



『ゴンボ・ゼーブ』明治18年（1885） 松江市立中央図書館蔵

ルイジアナ、ハイチ、マルティニーク、トリニダード、フランス領ギアナ、モーリシャスというクレオール文化圏のこたわさ辞典で、明治17年（1884）のニューオーリンズ万博開幕に合わせて企画されました。「ゴンボ・ゼーブ」とはルイジアナで愛されるハーブ入りガンボ（スープ料理）の名で、混淆(こんごう)的なクレオール文化を、種々の具材を煮込んで作るガンボになぞらえたと思われる。本書の序文には「いま、伝承を書き留めておかなければ」と、民俗研究の嚆矢(こうし)となるという強い意志が語られます。

※ここでのクレオールとは、北米南部・中南米におけるヨーロッパ、アフリカ、先住民などの混淆文化を指します。

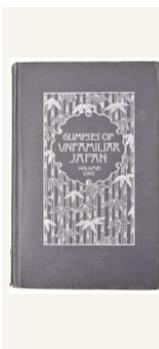
第2章 神々の国へ—小泉八雲への転生—

長い旅の末、ついにハーンは理想郷たる神々の国、日本へたどり着きます。目前に広がる『古事記』の世界と、素朴な信仰をいまだ持ち続ける人びとの姿。ハーンは日本人を小さな妖精とたとえ、その営みを見つめ続けました。その一方で、忍び寄り西洋近代化と軍国主義の波。期待と不安のなか、ハーンは松江で生涯の伴侶、セツに出会います。松江を離れ、熊本、神戸と旅を続けるハーンは小泉八雲へと“転生”し、日本人の自然観・宗教観を反映させた日本印象記や再話作品を生み出していきます。そして、終の棲家となった東京では、『怪談』が生まれようとしていました。



出雲国大社図 江戸時代 島根県立古代出雲歴史博物館蔵

松江へ赴任して2週間後、ハーンは出雲へ赴き、その感動から蒸気船の音が「コト・シロ・ヌシ・ノ・カミ」「オオ・クニ・ヌシ・ノ・カミ」とまるで祝詞のように聞こえたと書き残しています。そして、西洋人としてはじめて大社（現在の出雲大社）の本殿への昇殿が許されました。本図は、出雲大社が石見国の富豪・志学富屋へ授与した境内図です。延享元年（1744）の遷宮以降の境内が精緻に描かれ、ハーンが見たであろう大社の姿を伝えています。

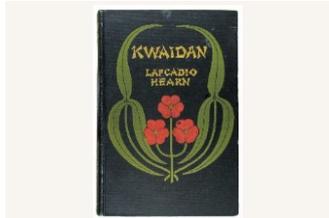


『知られぬ日本の面影』明治27年（1894） 近畿大学中央図書館蔵

来日後の第1作となる作品で、のちに初版26刷のベストセラーとなるハーンの代表的な日本印象記です。表紙には雪輪と竹が描かれ、ハーンは「竹の本」と呼んだといひます。横浜到着時から松江・出雲での見聞に基づく話を中心とする27章を収録しています。松江の橋の幽霊話や大亀の怪異譚など、山陰地方に伝承される民間信仰や俗信についての記述が厚く、ハーンの民俗学的な関心がうかがえます。

第3章 幻想の筆記者—怪談の世界—

小泉八雲の代表作にして再話文学の傑作、『怪談』。八雲は、セツの口から語られる怪異譚や奇談を聞き、想像を膨らませながら再話作品へと昇華させるという手法をとりました。八雲の卓越した文体とセツの臨場感ある語りによって生まれた幻想の文学は、まさにふたりの共著作品ともいえます。それらのひとつひとつは、私たちに恐怖を感じさせながらも、どこか神秘的な趣きを有しています。それは、文学者としてだけでなく、フォークロリストとしての側面を持つ八雲だからこそ生みだすことができる物語だったのかもしれない。



『怪談』明治37年（1904） 松江市立中央図書館蔵

八雲は、昔話や伝説、神話などの原典を語りなおし、物語を生み出す「再話文学」を多く残しています。『怪談』は、小泉八雲の晩年の代表作といえる再話作品集です。平家の亡霊に魅入られた琵琶の名手・芳一(ほういち)を巡る惨劇「耳なし芳一の話」や、江戸・紀ノ国坂でのつべらぼうに遭遇する「貉(むじな)」など、今日まで知られる怪談話を多数収録しています。八雲は、妻セツの語る物語を聞き、小説を編みました。本展では、『怪談』をはじめとする再話文学の原典となった資料もあわせて展示いたします。



「耳なし芳一」草稿 明治時代 松江市立中央図書館蔵

盲目の琵琶の名手・芳一のもとに、ある夜、武士が訪ねてきます。誘われるがまま御殿に赴き、求めに応じ壇ノ浦合戦の段を弾唱する芳一。しかし、御殿は墓場で、芳一は平家の亡霊に魅入られていたのです。それを知った和尚は芳一の体中に経文を書き、唯一耳に書くのを忘れ、芳一の耳は亡霊に引きちぎられました。耳なし芳一は、『臥遊奇談(がゆうきだん)』（1782）所収の「琵琶秘曲泣幽霊(びわのひきようれいをなかしむ)」を原典に再話されたといわれます。セツは、「門を開け」と武士が叫ぶ場面で、八雲から強みがないと返され、猛々しく「開門」と語ったと回想しています。

『小泉八雲秘稿画本 妖魔詩話(ようましわ)』 昭和9年(1934) 島根県立古代出雲歴史博物館蔵

八雲の没後30年を記念し、長男の一雄が遺稿をもとに500部限定で刊行しました。本書の序文によると、セツが購入した『狂歌百物語』を目にした八雲は「コウ面白イ！ 貴女忙シ無イノ時、是非読ム下サレ、私翻訳シマセウ」と喜んだそうです。八雲の描く妖怪たちは、『狂歌百物語』の挿絵とは一線を画し、独特のイメージで表現されています。たとえば、『怪談』で美女に化けて現れるとされる雪女はどこか洋風の姿で描かれます。また、桶(おけ)や柄杓(ひしゃく)で水を掬(すく)い入れ、船を沈める船幽霊(ふなゆうれい)は、まるで死神のようです。 ※会期中、一部ページのめくり替えをいたします。



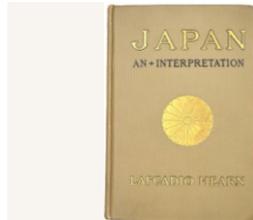
雪女(部分)
(展示期間: 4月11日~5月11日)



船幽霊(部分)
(展示期間: 5月13日~6月8日)

終章 受け継がれるゴースト—魂の行方—

明治37年(1904)の秋ごろから、八雲はときどき心臓発作を起こすようになりました。9月26日の朝、八雲はセツに珍しい夢を見たことを告げます。どんな夢だったかを聞くと、「大層遠い、遠い旅をしました」と答えました。その晩、再び心臓発作を起こし、八雲はあの世へ旅立ちました。八雲の残した数々の作品は、今なお人びとに影響を与え続けています。異邦人として、作家として、そしてフォークロリストとして日本人の霊性(ゴースト)を見つめ続けてきた八雲の魂は、紡がれた言葉とともに私たちに受け継がれています。



『日本—ひとつの解明』 明治37年(1904) 近畿大学中央図書館蔵

アメリカ・コーネル大学で行う予定であった連続講座の草稿をまとめた、日本研究の集大成であり遺作です。八雲は、「活字を組む音がカチカチ聞こえる」と出版を心待ちにしていたといいます。そのほかの著書と異なり論文形式をとり、日本における宗教の役割について、家族や地域社会、国家という異なるレベルから論じました。八雲は、祖先崇拜を基軸とした宗教に基づく慣習が維持されることで社会道徳の秩序が保たれてきたと指摘、「死者の法律」の重要性を説きました。



ヘルン像(右横顔) 小泉清(こいずみきよ)筆 昭和25年(1950) 小泉八雲記念館蔵

八雲の三男・小泉清(1899~1962)は、明治45年(1912)に早稲田中学に入学後、會津八一(あいづやいち)に画才を見出されます。大正8年(1919)、佐伯祐三や前田寛治らも所属していた東京美術学校(現:東京藝術大学美術学部)に進学、画家を志します。その後、フォービズム(野獣派)の画風を追求しました。この絵は、清が描いた八雲の右横顔です。八雲は少年時代の事故で左目を失明しており、写真にはほぼ右側の横顔を収め、頑なに左目を隠しました。清は、八雲が隠し続けた左横顔も描いています。本展では、両作品あわせて出品いたします。

[NEW] 学芸員コラム

蕎麦屋の屋台に駆け込んだ男は「出たんだよ…出たんだよ女が！ ああ、あの女が見せたんだ！」と怯えている。どうやら恐ろしい出来事があったらしい。すると店の者は「ほう…それはこんなものを見せたんですか？」と言。そして顔を撫でると、はたして、のっぺらぼうであった。

このような筋の話を、小学校入学のころには知っていました。それが、八雲の「貉(むじな)」という話だと気づくのはもっとあとのことでした。まさに、水のように小泉八雲の物語が染みこんでいたようです。『怪談』に代表されるさまざまな作品を生んだ小泉八雲。彼はまた、『知られぬ日本の面影』などの日本印象記を数多く残したことで知られます。異邦人として日本の文化を見つめたからこそ、素朴な信仰や生活の諸相を、自らの作品に生き生きと編み込むことができたのだと思います。

小泉八雲に関する書籍は五指に余り、八雲の精神や作家性に触れる展覧会も多く企画されてきました。「小泉八雲—怪談とフォークロリストのまなざし—」では、それらと少し趣向を変え、フォークロリスト、つまり民俗を学ぶ者としての小泉八雲に光をあてながら、種々の資料や作品を見つめるものになりました。松江・出雲で見た信仰の風景、自然に接して感応した感覚、語られては消えていく形のない「怪異」。これらは、民俗学の創始者・柳田國男が「心の採集」と称してもっとも重視した概念と呼応します。八雲は、日本という地にありながら、常に「心」を採集し続けたといえるでしょう。あるいは、本展はフォークロリスト・小泉八雲と私たちとの対話を楽しむものとも言い換えられるかもしれません。

「生徒たちの間にはある種の民間信仰に関する健康な懐疑主義の風潮が認められる。」当時、英語教師として松江に赴任した八雲はこのように述べています。西洋化が著しい明治時代の様子を描写していますが、どこか余裕がなく、目に見えないものを振り返ることのない現代にも当てはまるように感じます。この展覧会を通じ、小泉八雲の民俗世界と紡がれた言葉に触れ、皆さまのなかに何か得られるものがあることを心より願っています。



大阪歴史博物館 学芸員 俵 和馬

[NEW] 関連行事

(1) 講演会「〈つながりの文学〉としての怪談—八雲とアニミズムをめぐって—」

講師：小泉 凡 氏（小泉八雲記念館館長・小泉八雲曾孫）
日時：2026年4月25日（土）午後2時～3時30分（受付：午後1時30分～）
会場：大阪歴史博物館 4階 講堂
定員：250名（要事前申込）
参加費：2,500円（「特別展観覧券」付き、税込）
参加方法：事前予約制



小泉 凡Profile | 小泉八雲記念館館長・小泉八雲曾孫

1961年東京生まれ。成城大学・同大学院で民俗学を専攻後、1987年に松江へ赴任。妖怪、怪談を切り口に、文化資源を発掘し観光・文化創造に生かす実践活動や、小泉八雲の「オープン・マインド」を社会に活かすプロジェクトを世界のゆかりの地で展開する。2022年度全国日本学士会アカデミア賞を受賞。小泉八雲記念館館長・焼津小泉八雲記念館名誉館長・島根県立大学短期大学部名誉教授。著書に『民俗学者・小泉八雲』（恒文社）、『怪談四代記—八雲のいたずら』（講談社）、『小泉八雲と妖怪』（玉川大学出版）、『セツと八雲』（朝日新書）ほか。小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）曾孫、日本ペンクラブ会員。

(2) 担当学芸員によるスライドトーク

講師：依 和馬（大阪歴史博物館 学芸員）
日時：2026年4月18日（土）、5月16日（土）いずれも午後2時～（約30分）（受付：午後1時30分～）
会場：大阪歴史博物館 4階 講堂
定員：250名
参加費：無料（特別展の観覧券もしくは半券提示が必要です）
参加方法：当日先着順

※（1）（2）いずれも、詳細につきましては、大阪歴史博物館ホームページ（<https://www.osakamushis.jp/>）等をご覧ください。

[NEW] スペシャルコンテンツ 村上ロック「耳なし芳一」

スペシャルコンテンツとして、怪談師の村上ロックさんに「耳なし芳一」を語っていただきました。全編は会場でお楽しみいただけます。

出演：村上ロック 氏
企画協力：怪談ライブBarスリラーナイト道頓堀店
企画制作：産経新聞社



村上ロックProfile | 怪談師、俳優

北海道帯広市出身。怪談師として東京都新宿区歌舞伎町にある怪談ライブバー「スリラーナイト」で活動しながら、各種メディアやイベント等で出演している。俳優出演時は『村上ROCK』名義を使用。主に白石晃士監督作品に出演している。



村上ロック「耳なし芳一」

[NEW] グッズ（一部） ※画像はイメージです

本展オリジナルグッズも多数ご用意しています。

(裏) (表)



クリアファイル



トートバッグ



マグカップ

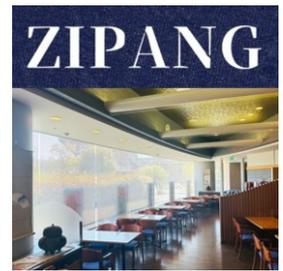
メタルブックマーカー



[NEW] タイアップ ※税込 ※画像はイメージです

■レストラン「ZIPANG」

大阪歴史博物館1階レストラン「ZIPANG」では、本展開催期間中（4月11日～6月8日）、コラボメニューをご提供します。お楽しみに！



レストラン「ZIPANG」

■縁結び美味しまね認証店 半券提示サービス

島根県大阪事務所では、島根県産食材や島根のお酒を使用している関西の飲食店を「縁結び美味しまね認証店」として認証しています。この一部の店舗で本展開催期間中（4月11日～6月8日）、お得な半券サービスを実施予定です。

- ・出雲そば 炭火やきとり とびた 谷町店（大阪府中央区谷町6-4-8 新空堀ビル1F）
お食事された方にドリンク1杯サービス
- ・出雲そば 炭火やきとり とびた 天満橋店（大阪府中央区島町1-1-1）
ランチ100円引き、夜はお食事された方にドリンク1杯サービス
※土曜日、祝日はランチ営業は行っていません
- ・シマネヤ 北浜店（大阪府中央区高麗橋2-4-14）
お食事された方にピアヘルン（ビール）1杯サービス
- ・シマネヤ 平野町（大阪府大阪市中央区平野町4-6-9 南ビル1F）
お食事された方にピアヘルン（ビール）1杯サービス

※20歳未満の飲酒は禁止されています。 ※飲酒運転は犯罪になります。



■怪談ライブBarスリラーナイト道頓堀店 タイアップドリンク

日本文化に惹かれた小泉八雲とその世界観を表現しました。ブルーキュラソーとグレープフルーツジュースを使用した爽やかな味わいをお楽しみください。

商品名：KOIZUMI

価格：1,000円

実施期間：4月11日（土）～6月8日（月）* 予定

特典：「KOIZUMI」をご注文の方に、小泉八雲展ノベルティ（非売品）をプレゼント。
先着100名まで。

※20歳未満の飲酒は禁止されています。 ※飲酒運転は犯罪になります。



タイアップドリンク「KOIZUMI」

本展の開催を記念して、怪談ライブBarスリラーナイト道頓堀店主催にて、小泉八雲をテーマにした怪談イベントを実施。

詳細は店舗HP（<https://www.thriller-osaka.com/>）をご参照ください。

イベント名：八雲と3人の怪談師 出演者：スズサク/ウエダコウジ/響洋平

日程：2026年5月6日（水） 会場・主催：怪談ライブBarスリラーナイト道頓堀店

【広報画像申込書フォーム】

特別展「小泉八雲—怪談とフォークロリストのまなざし—」

広報用画像を提供いたします。ご希望の場合は、下記よりお申込みください。

【申込フォーム】

<https://forms.gle/S7N9oW4QmASTgiPq7>

※入力難しい場合は、広報事務局までお問い合わせください。



小泉八雲展

【広報用画像使用に関する注意事項】

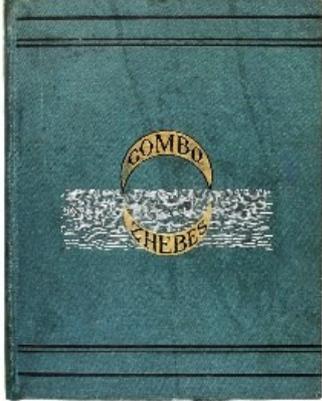
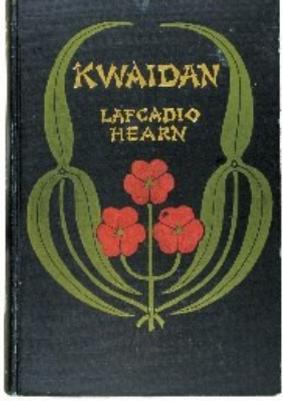
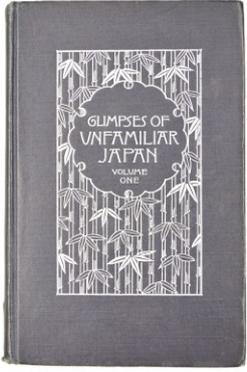
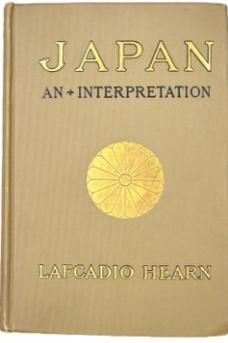
- 本展広報目的での使用に限ります（会期終了まで）。使用後は、データの破棄をお願いいたします。
- 展覧会名、会期・会場名のほか、クレジットを必ずご掲載ください。
- 画像は全図でご使用ください。トリミング、文字乗せなどの加工・変更はできません。
- 転載、再放送など、二次使用される場合は別途申請をお願いいたします。なお、展覧会終了後の二次使用はできません。
- 基本情報、画像使用などの確認のため、ゲラ刷り・原稿段階のものを「広報事務局」にお送りください。
- 掲載誌・紙（ご紹介号）、URL、同録DVD、データほかを下記広報事務局まで1部お送りください。

【報道に関するお問合せ】

「小泉八雲展」広報事務局（ネネラコ内）

E-MAIL | koizumiyakumoten@nenelaco.com TEL | 06-6225-7885 FAX | 06-7635-7587
〒531-0072 大阪市北区豊崎3-15-5 TKビル ※平日午前10時～午後5時（土日祝日のお問合せは翌営業日に対応いたします）

[広報画像一覧]
 特別展「小泉八雲—怪談とフォークロリストのまなざし—」

<p>[2]</p> 	<p>[3]</p> 	<p>[4]</p> 
<p>[5]</p> 	<p>[6]</p> 	<p>[7]</p> 
<p>[8]</p> 	<p>[9]</p> 	<p>[10]</p> 
<p>[11]</p> 	<p>[12]</p> 	<p>[13]</p> 

【報道に関するお問合せ】

「小泉八雲展」広報事務局（ネネラコ内）

E-MAIL | koizumiyakumoten@nenelaco.com TEL | 06-6225-7885 FAX | 06-7635-7587
 〒531-0072 大阪市北区豊崎3-15-5 TKビル ※平日午前10時～午後5時（土日祝日のお問合せは翌営業日に対応いたします）

【広報画像クレジット一覧・申込書】
特別展「小泉八雲—怪談とフォークロリストのまなざし—」

【広報画像・キャプション一覧】ご希望の画像番号の□に✓をお願いします。

番号	クレジット一覧 *アキは全角です
1□	メインビジュアル ※クレジットなし
2□	神戸時代の小泉八雲 大阪歴史博物館保管
3□	『ゴンボ・ゼーブ』明治18年（1885） 松江市立中央図書館蔵
4□	『怪談』明治37年（1904） 松江市立中央図書館蔵
5□	『小泉八雲秘稿画本 妖魔詩話』雪女（部分） 昭和9年（1934） 島根県立古代出雲歴史博物館蔵（展示期間：4月11日～5月11日）
6□	『小泉八雲秘稿画本 妖魔詩話』船幽霊（部分） 昭和9年（1934） 島根県立古代出雲歴史博物館蔵（展示期間：5月13日～6月8日）
7□	ヘルン像（右横顔） 小泉清筆 昭和25年（1950） 小泉八雲記念館蔵
8□	「私の守護天使」草稿 明治時代 松江市立中央図書館蔵
9□	「私の守護天使」草稿 明治時代 松江市立中央図書館蔵
10□	出雲国大社図 江戸時代 島根県立古代出雲歴史博物館蔵
11□	『知られぬ日本の面影』明治27年（1894） 近畿大学中央図書館蔵
12□	「耳なし芳一」草稿 明治時代 松江市立中央図書館蔵
13□	『日本—ひとつの解明』明治37年（1904） 近畿大学中央図書館蔵

貴社名／	ご所属部署／
ご担当者／	TEL／
E-mail／	
貴媒体名／	媒体種／
掲載号・露出予定日／ 月号（ 月 日号）／ 月 日発売予定 <input type="checkbox"/> WEBへの転載あり	
サイトURL／	
媒体プレゼント用チケット／ <input type="checkbox"/> 希望（2組4名まで）※1点以上の広報用画像使用必須、発送は開幕直前になります お送り先／〒	

【報道に関するお問合せ】

「小泉八雲展」広報事務局（ネネラコ内）

E-MAIL | koizumiyakumoten@nenelaco.com TEL | 06-6225-7885 FAX | 06-7635-7587
 〒531-0072 大阪市北区豊崎3-15-5 TKビル ※平日午前10時～午後5時（土日祝日のお問合せは翌営業日に対応いたします）